

令和7年度 墨田区教育委員会 特色ある学校づくり推進校

# 研究紀要



令和7年12月18日(木)  
墨田区立豎川中学校

〒130-0014

東京都墨田区亀沢4-11-15

TEL 03-3625-0365

FAX 03-3625-1494

月  
日  
（日直）

# 「はじめに」

墨田区立竪川中学校 校長 稲垣 吉実

本校では、令和7年度特色ある学校づくり推進校として、令和の日本型学校教育が掲げる「個別最適な学び」と「協働的な学び」の理念に基づき、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育の在り方を追求してまいりました。

今年度の研究テーマとして掲げた「個別最適な学びについての学習法の研究」では、生徒が自らのペースで学びを進める自由進度型学習法を中心に、主体的な学びの姿を育む授業づくりに取り組んでまいりました。教職員が協働し、生徒の多様な学びのスタイルに応じた指導方法の工夫を重ねることで、学びの質の向上を図っております。

本研究を進めるにあたり、東京女子体育大学教授・石出勉先生には、理論的なご助言と実践的なご指導を賜り、心より感謝申し上げます。先生のご助言は、私たちの研究の方向性を明確にし、教育実践に深い示唆を与えてくださいました。

本紀要には、これまでの研究の成果と課題、そして今後の展望についてまとめております。ご一読いただき、皆様からのご意見やご助言をいただければ幸いです。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 個別最適な学び・協働的な学びの一体化を実現する授業デザイン

「個別最適な学びについての学習法の研究」・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して」のもと、昨年度から、東京女子体育大学教授・石出勉先生を講師に招き研修・研究を重ねてきた。講師による講義、講演の他、「互見週間」と題して校内でのお互いの授業を参観し意見交換会を行う校内研修を年に2回実施し、「個別最適な学び」を取り入れた学習法の実践例を教職員間で共有している。今年度は従来の学習指導案ではなく秋田県大曲市教育委員会の授業実践プラン例を参考にして、竪川中学校独自に授業デザイン案を作成し授業改善を図っている。

授業デザイン案では生徒一人ひとりが自分のペースで学習を進める自由進度型学習をねらいとしたフォーマットにしており、教材の選択を自己決定し、理解度や興味関心に応じて学んでいく「個別最適な学び」を実現することを目標としている。授業デザイン案を作成するにあたり、講師から紹介していただいた堀田龍也先生、奈須正裕先生、田村学先生をはじめとする「個別最適な学び」につながる著書を参考文献として研究につなげている。

7月に実施した互見週間では講師の石出先生にも授業を参観していただき、授業改善に向けた指導をいただくことで研修の成果を高められるよう尽力してきた。

研究成果を更にブラッシュアップすることを目的に石出先生には授業デザイン案の監修もしていただいた。

石出先生による授業参観

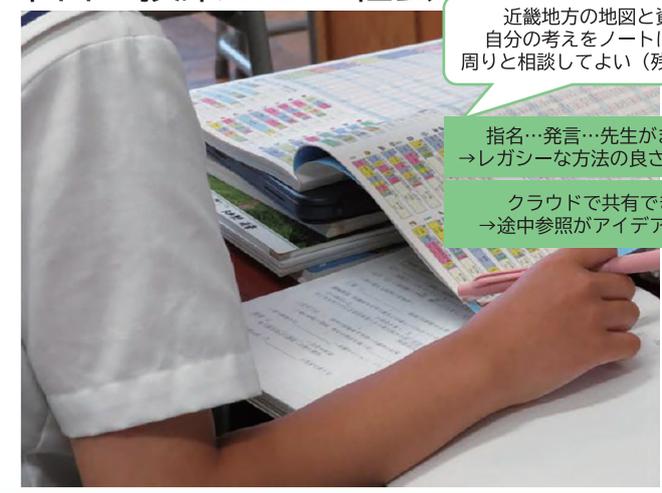


かかった生徒のサイン  
→記録が残る  
→多様なかわりを確保

→クラウドで共有すれば  
クロスチェックもできる

説明に電子メモを活用

## 本日の授業から 社会



近畿地方の地図と資料  
自分の考えをノートに記入  
周りと相談してよい(残り1分)

指名…発言…先生がまとめ  
→レガシーな方法の良さもあるが

クラウドで共有できる  
→途中参照がアイデアを生む

授業デザイン案 アドバイス

7 1次関数の活用 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・y=何x+何ですか? Desmos</li> <li>・y=何x+何の境目のイメージがわかるか?</li> <li>・y=何x+何の境目のイメージがわかるか?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1次関数のグラフをかく。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいを達成した生徒の姿</li> <li>・与えられた条件から直線の式(1次関数)を求めることができる。</li> <li>・2元1次方程式から直線のグラフ(1次関数)をかきことができる。</li> <li>・y=kx+hの式から直線のグラフ(1次関数)をかきことができる。</li> <li>・以上の3つの問題を、正確に解くことができる。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な生活場面を背景をグラフに落とし、グラフで示すことができることについて</li> </ul>	

## 中学校 第2学年（数学）単元名 [ 第3章 1次関数 ]

第5時 ～ 第9時の目標 全14時間

- ・与えられた条件から直線の式（1次関数の式）を求めることを通して、1点の座標と傾きから直線の式を求めたり、2点の座標から直線の式を求めたりすることができる。
- ・2元1次方程式のグラフを1次関数の式と見ることができるようになるとともに、x軸に平行な直線やy軸に平行な直線をそれぞれ $y=k$ 、 $x=h$ と関連付けて考察し、表現することができる。

### 学習課題

- (1) グラフの傾きが3で(2, 8)を通る1次関数の式を求めなさい。
- (2) グラフが(1, -2)、(3, 4)を通る1次関数の式を求めなさい。
- (3) 2元1次方程式 $3x + 2y = 6$ のグラフをかきなさい。
- (4)  $y = -1$ のグラフをかきなさい。
- (5)  $x = 3$ のグラフをかきなさい。

### 単元の全体計画

1. 1次関数 (1時間)
2. 変化の割合 (1時間)
3. 1次関数のグラフの特徴をとらえ、  
グラフをかく (2時間)
4. 1次関数の式の求め方 (4時間)
5. 2元1次方程式のグラフ (1時間)
6. 連立方程式の解とグラフ (1時間)
7. 1次関数の活用 (4時間)

#### 個

解法を学んだ問題に対して、学習の定着を図るために教え合いをおこなう。難易度をいくつか設定した問題を提示し、問題を解き終わった生徒は、まだ解いている生徒に教えにいくか、次のレベルの問題に挑戦するか状況に応じて判断していく。

#### I

問題の解法を話し合う際にタブレットを使用する。また、各班の考えを共有する際に電子黒板を利用する。  
・電子黒板を利用し、1次関数のグラフをかく。

#### 協

2点の座標から1次関数のグラフの式を求める方法を、既習事項を振り返りながら話し合う。  
2元1次方程式からグラフをかく方法を、既習事項を振り返りながら話し合う。  
※ $y = k$ となる具体的な場面がイメージできない生徒が多いことが予想される。 $y = 0x + b$  傾きが0と捉えることができると伝えることで、協働的な学びの中で気づかせる。

### 評価 ねらいを達成した生徒の姿

- ・与えられた条件から直線の式（1次関数）を求めることができる。
- ・2元1次方程式から直線のグラフ（1次関数）をかくことができる。
- ・ $y=k$ 、 $x=h$ の式から直線のグラフ（1次関数）をかくことができる。
- ・上記の3つの問題を、正確に解くことができる。
- ・具体的な生活場面の事象を式とグラフで表すことができる。

## 中学校 第3学年（社会）単元名 [ 憲法が保障する基本的人権 ]

第1時～第6時の目標 全8時間

・憲法が保障している基本的人権について理解を深め、どのように守っていけばよいか考えることができる。

### 学習課題

人権において現在どのような課題があり、それらを解決していくために私たちや社会ができることはなんだろう？

<p>単元の全体計画</p> <p>1.人権の根源にあるもの、次回以降の説明 (1時間)</p> <p>2.人権についてグループごとに分かれスライド作成 (3時間)</p> <p>3.スライドをもとに他者に説明 (2時間)</p> <p>4.進捗確認シート記入 (1時間)</p> <p>5.教師による内容確認 (1時間)</p>	<p><b>個</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権について5つのグループに分けて自分の担当するものについてスライドを作成</li> <li>①平等権とは</li> <li>②自由権とは</li> <li>③社会権とは</li> <li>④参政権とは・公共の福祉とは</li> <li>⑤新しい人権とは・世界の人権について</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の担当が終わった生徒はワークなどを用いて知識の定着を図る。</li> </ul>	<p><b>I</b></p> <p>スライド作成中は、質問を受けつつ、生徒に一人一回は必ず声をかけ進捗の確認や分からない点がないか確認する。</p>
<p>評価 ねらいを達成した生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題に対して平等権、自由権、社会権、参政権、公共の福祉、新しい人権、世界の人権に関する知識をもちつつ、それぞれの人権に関する課題を身近な事として興味をもち、より良い社会について意見を表すことができている。</li> </ul>		

## 中学校 第1学年（美術）単元名 [ 文字のデザイン ]

第2時 ～ 第3時の目標 全16時間

- ・文字や文字が意味するものの形や色彩の性質、それらが感情にもたらす効果や造形的な特徴などを基に伝達するイメージなどで捉え、図に表すことができる。
- ・文字の意味やイメージ、伝える場面を基に、分かりやすさと形などとの調和を考えた表現を図に表すことができる。
- ・文字をデザインする表現の学習活動や生活を豊かにする美術の働きについて考える鑑賞の学習活動から、文字の視覚的効果について意見を表すことができる。

### 学習課題

互いのアイデアを見合い、他者に伝える活動を通して、発想のヒントやより効果的な表現方法について見方を広げる。

### 単元の全体計画

1. 文字のデザインについて知る  
(1時間)
2. 構想を練る  
(1時間)
3. アイデアの相互鑑賞  
(1時間)
4. 下図を描く  
(3時間)
5. 色彩について知る  
(2時間)
6. 配色計画を立てる  
(1時間)
7. 着彩する  
(6時間)
8. 完成作品の相互鑑賞、自己評価  
(1時間)

個

- ・商品のロゴやデザインされた文字を鑑賞し、感じ取った形や色彩の工夫などを基に表現の構想を練る。

協

- ・班員同士でアイデアスケッチを相互鑑賞し、お互いのアイデアの工夫を感じ取る。
- ・自分の思いや表現の意図を他者に伝えたり、他者の意見を取り入れたりしながら発想や構想を深める。

個

- ・相互鑑賞を経て再構想し、アイデアを決定する。

協

- ・相互鑑賞を経て再構想し、アイデアを決定する。

I

- ・マッピングを使うことで、発想を広げられるようにする。
- ・資料箱(ロイロノート)に参考資料を入れておき、自由に閲覧できるようにする。
- ・個々の作品や考えをタブレット上で共有する。

### 評価 ねらいを達成した生徒の姿

- ・互いのアイデアを見合い、他者に伝える活動を通して、発想のヒントやより効果的な表現方法について自分の作品に取り入れることができる。

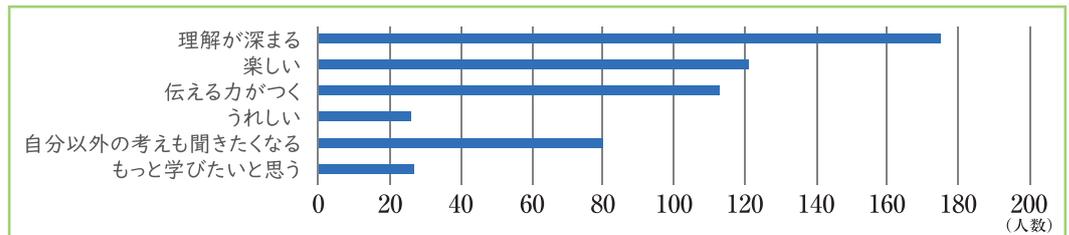
# 研究の成果

本校では、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実践において指導法を探究してきた。ここでは、実際に生徒に感想を聞いたアンケート結果と共に、指導にあたった教員の率直な感想をまとめる。これから「個別最適な学び」や「協働的な学び」を実践に生かそうとされる先生方の一助になれば幸いである。

## 生徒の感想

- ①「個別最適な学び」について、習熟度や能力に応じて指導内容や課題が異なることは自分の「やる気」につながったか。  
→「とてもつながった」・「まあまあつながった」の肯定的な意見が、合わせて90%だった。
- ②「個別最適な学び」について、自分で課題を見つけ、それに向けて解決方法を考えたり調べたりする活動は、自分の学力や能力を高めたと感じるか。 →「とてもそう思う」・「まあまあそう思う」の肯定的な意見が、合わせて89%だった。
- ③「個別最適な学び」について、自分で課題を見つけ、それに向けて取り組むツールとしてもっとも頻度が高いものは何か。  
→キュービナ46% ワークブック25% 学習プリント21% ミライシード4% その他4% (カフト、塾、友達と勉強、教科書、通信教育の教材 等)
- ④「協働的な学び」について、意見や考えの異なる人と、グループワークをすることで、自分の考えが深まったり新しい気づきになったりしたと感じるか。 →「とてもそう思う」・「まあまあそう思う」の肯定的な意見が、合わせて96%だった。
- ⑤「協働的な学び」について、自分が考えたことを他人に伝えたり教えたりすることは、あなたにとってどのような良さがあるか。(複数回答) →

※336人中



- 生徒の感想からも、「個別最適な学び」や「協働的な学び」は、学習の理解をする上で、達成感や成就感が高く、且つ楽しんで取り組んでいることが分かった。

## 教師の感想

「個別最適な学び」「協働的な学び」の授業形態を実践する上で意識したことや、今後取り組む方へのアドバイス。

- ・協働的な学びにはロイノートを活用すると生徒の考え、意見が共有できる。発表が苦手な生徒への配慮にもつながる。授業全体の進行において意見共有、個別に取り組む時間のバランスは意識しないといけないと思った。
- ・やってみるのが大切。
- ・『個別最適な学び』の授業の中でも、どちらかというと『学習の個性化』より『指導の個別化』の方が多くなってしまっている印象がある。主体的に学習に取り組む態度も評価していく上で『学習の個性化』の中で、生徒自らが自分にとって最適な学習レベル(学習方法)を見いだせるようにアドバイスしていきたい。アドバイスできるように日頃の授業の中で意識している。
- ・生徒に困っていることがないか必ず全員に声をかけるようにし、自ら質問をしにくい生徒も困っていることを発信しやすいように心がけた。
- ・今までの授業よりも生徒の活動を多くした。

- 指導する側にも、取り入れる難しさがある一方、やって良かったと感じる部分もあった。教科によっても、また生徒の実情によっても、画一的な取り組み方はできないかもしれないが、ひとつの単元、ひとつの教材からでも挑戦してみたい。

※教員の感想の「実践にあたって、難しかったところや苦勞したところ」「『個別最適な学び』『協働的な学び』の授業形態を実践し、よかったところや有意義だったところ」については、紙面の都合上割愛しています。当日の授業デザイン案のデータと共に提示しますのでご覧ください。